

<令和 8 年 7 月 定例記者会見>

1 開催日時

令和 8 年 7 月 6 日（月）午前 1 0 時 3 0 分～午前 1 1 時 0 0 分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、NHK盛岡放送局、朝日新聞社、岩手日報社、読売新聞社、河北新報社

4 発表事項

（１）夏休みプログラミングワークショップの開催について（企業振興課）

市では、今後さらなる技術革新の進展が予想される社会情勢を鑑み、産業人材育成事業に取り組んでおります。

小学校から高等学校までの教育機関においても社会に対応できる人材を育成するためにプログラム教育の必修化が進められており、ICT教育に、より注目が集まっていることから、本市においても産業人材育成の一環といたしまして、小中学校の夏休み期間にプログラミングワークショップを開催いたします。

このワークショップは、滝沢市内及び盛岡広域の小中学生を対象として「**viscuit**（ビスケット）」、「**scratch**（スクラッチ）」、「**micro:bit**（マイクロビット）」といわれるプログラミングを楽しく体験できる内容となっており、プログラミング経験の有無に関わらずご参加いただけます。

このワークショップでの体験により、産業人材を育成するとともに ICT 関連産業の関心が高まることを期待しているところでございます。ワークショップの詳細といたしましては、7月25日（土）及び26日（日）の2日間に滝沢市IPU第2イノベーションセンターにおいて開催いたします。

講座の種類により参加対象が異なりますが、滝沢市内及び盛岡広域の小学1年生から中学3年生が参加でき、参加料は無料です。7月20日（月）までIPUイノベーションセンターのホームページにて参加申込みを受け付けております。

事業の周知及び取材について、どうぞよろしくお願い致します。

（２）「滝沢ミライプロジェクト2026」事業の実施について（若者活躍推進室）

滝沢市に関わりたい高校生・専門学生・大学生が、地域での体験や仲間との交流を通して、自分のアイデアを磨き、挑戦・発表までを経験できる「滝沢ミライプロジェクト」は今年度で4回目を迎え、令和8年度のプロジェクトは4月から実施しています。今年度は、すでに交流イベントを2回開催し、参加学生が仲間づくりを進めています。

今後は7月のイベントで交流をさらに深め、仲間づくりを進めながら、9月には「タキザワ チャレンジ キャンプ」でアイデアを具体化する手法を学び、ワークショップ、プロジェクト設計などを通じて「アイデアを形に」します。

その後、9月～12月にかけて実践活動を行い、最後に発表会を開催します。

現在、この滝沢ミライプロジェクト実践プログラムの参加申込を受け付けており、申込期限は9月9日（水）までとなっています。

事業の周知及び取材について、よろしくお願いいたします。

(3) 「水の日」「水の週間」ブルーライトアップについて（経営課、施設課）

8月1日（土）から8月7日（金）まで滝沢総合公園ロックガーデンにおいて、ブルーライトアップを実施いたします。

滝沢市の上水道は99%が岩手山由来の地下水で作られています。この豊かな地下水資源をPRすると共に、水の大切さや水資源の保全、健全な水循環について理解を深め、水とのかかわりについて考えるきっかけを提供することを目的とし、水の大切さに関する普及啓発活動として「水の日」・「水の週間」に合わせて、水を連想させるブルーに滝沢総合公園ロックガーデンをライトアップする取り組みを実施します。

この取り組みは、令和6年度から実施してきたところですが、今年度も多くの皆様の目に触れるような取り組みとして行うことで、滝沢市の豊かな水資源PRはもちろんのこと、水や水資源の大切さ、健全な水循環や水とのかかわりについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。

期間中にはロックガーデンの他に総合公園内のもう1か所をブルーに照らす予定としています。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：水の日のライトアップについて、もう1か所はどこですか。

上下水道部長：投光器を使ってライトアップを行いたいと考えていますが、照明の範囲、雨天でも実施できるかなどを確認しています。ロックガーデン下のせせらぎ部分のライトアップを考えていますが、難しい場合は、新たに設置した遊具をライトアップするような形も検討しています。現時点では検証を進めているところであり、どの場所で開催するのかは確定していません。

記者：滝沢ミライプロジェクトについて、今回で4回目とのことですが、これまでどのようなアイデアが選ばれたのか、また、市長ご自身が印象に残っているものがあれば教えてください。

市長：高校生や若い皆さんから、さまざまな提案をいただいています。特に印象に残っているのは、滝沢市の果物や特産物をグラノーラに加工して、新しい商品として販売できればという提案です。私自身もぜひ実現してもらいたいと思っております。若い人たちから出てくるアイデアは、新鮮で思いにあふれたものが多く、できるだけ形にしていきたいと考えています。

若者活躍推進室長：グラノーラを提案してくれた方は、発表当時は盛岡北高等学校の生徒でしたが、今年から大学生になりました。受験期は動けないという話もありましたが、またやってみたいという意向を伺っており、再開していきたいと考えています。

経済産業部長：すぐに実施できるものについては、ユースフェスやクラフト市のように、支援しながら若い人たちを巻き込んで進めてきました。一方で、農家の皆さんや商工業の方々と共に進めるような事業は、やはり時間がかかります。今回のグラノーラについては、提案者が再び関わってくれるということで、私たちも期待しています。

6 その他記者からの当日質問

記者：震度 5 弱の地震がありましたが、市役所のトイレはその日のうちに復旧したのでしょうか。

企画総務部長：市役所のトイレにつきましては、翌日には使用できる状態までに復旧しました。

記者：かなり強い揺れだったと思いますが、市民の皆さんへの日頃の備えについて、改めて声かけをお願いします。

市長：今回のような地震を含め、災害に対しては、やはり日頃からの備えと心の準備が大切だと思っています。いつ何が起こるか分かりませんので、防災グッズを身近に置いておくことが重要です。水や懐中電灯、防災シートなど、さまざまな備えがありますので、気を付けていただきたいと思います。また、市役所でも水回りに不具合が生じたので、庁舎設備の点検も考えていくよう指示しています。市民の命と暮らし、安全を守るためには、市役所そのものが機能しなくなる事態だけは避けなければならないと考えています。古い庁舎ではありますが、大事に労わりながら必要な対応を進めていきたいと思っています。東日本大震災を経験した自治体として、今後も備え、支え合い、労わり合う自治体運営を目指していきたいと考えています。